

インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.169

2016年3月9日

発行所 兵庫教育文化研究所
〒650-0004
神戸市中央区中山手通 4-10-8

薬物乱用の害から身を守ろう

保健・体育部会
授業研究会

保健・体育部会が、宍粟市の小学校において保健の授業研究会をおこないました。6年生の保健で、病気やたばこ、アルコールの害について学ぶ8時間単元の最終の時間でした。6年生の担任がT1、研究所員である養護教諭がT2で授業をおこなわれました。

本時は、薬物について各自が調べてきたことの発表から始まりました。薬物の名称について、またその影響について、本やインターネット、家族へのインタビューなどから調べたことを、子どもたちは積極的に、次々発表しました。続いて、養護教諭の話から、また教材DVD視聴から薬物乱用の害についての専門的な知識を学びました。その後、もし薬物を使うように誘われたときにどう断るかを考え、交流するという授業でした。



研究協議では、「自分たちで調べてきていたことで意欲が高まり、その後の活動にも主体的にとりくむことができていた」「科学的な根拠に基づいて伝える必要があるが、内容が豊富すぎたのではないかなど活発に意見が交流されました。授業者からも参観者からも出ていた意見に、「断り方を考え交流する活動にもっと時間をかけたかった」というものがありました。子どもたちは理由もよく考えて断ろうとしていましたが、誘われるケースはいろいろあり、知識だけでは断ることが難しい場合もあります。簡単な場面から練習して、スキルを高めることも大切であると助言がありました。

共同研究者からは、以下のような助言がありました。

- 保健の授業になかなかとりくまれない現状があるが、テーマを絞り、その授業で子どもの意識をどう変えていくかを考えて、とりくみやすい保健授業をこれからも提案していこう。
- 知識を得るだけでなく、応用できるようになることが大切である。そのために、子どもたちが立ち止まって考えられるような発問を工夫することが必要である。

授業の内容はもちろん、子どもたちの人間関係づくりや社会環境についても活発に意見交流され、大変学びの多い授業研究会となりました。

(本授業の指導案等は「組合員専用ページ」に掲載しています。ID、パスワードは各支部へお問い合わせください。)